

SU-35 の売買を巡る中露のかけひき

漢和防務評論 20131224(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

漢和防務評論 (20131224) の記事を紹介します。

SU-35 の対中輸出をめぐる中露のかけひきが目立っています。

2013 年 8 月に開かれたモスクワエアショーでは、中国空軍代表団が SU-35 のシミュレーター参観をボイコットし、無視する姿勢を見せたようです。中国としては、足元を見られて交渉が不利にならないよう、「購入を急いでいない」姿勢を見せようとしたのでしょうか。

ロシア側も中国人への立ち入り許可証発行を制限し、「それほど売りたいわけではないよ」との姿勢を見せようとしたようです。

KDR モスクワ平可夫特電：

SU-35 の対中輸出問題に関して、ロシア航空工業界の権威筋が KDR に語った内容は、中国航空工業界の消息筋が KDR に語った内容と同様であった。

すなわち、交渉は進行中であるがスピードが相当緩慢である。“彼らは急いでないし、我々も急いでない” ロシア権威筋はこのように述べた。

” 今後 2 乃至 3 ヶ月のうちに、中国空軍はロシアにパイロットを派遣し、SU-35 のシミュレーターに乗せ、性能などを把握することになろう”。

” 我々は、中国パイロットに SU-35 を操縦させることはできない。単座機だからだ。したがってシミュレーターに乗ってもらおう。中国にとって SU-35 を購入することは重要な事業である。” ロシア権威筋はこのように述べた。

今回のモスクワエアショーは、中国人参加者が今までで最多のエアショーとなった。KDR の観察によると、彼らは、毎日エアショーに通い、ロシアの航空技術情報、特に大型エンジンの情報を収集しようとした。一方北朝鮮の軍事代表団は、SU-25 の改修状況に興味を持ったようだ。

” 中国空軍司令 MA XIAOTIAN 大將は、モスクワエアショーに出席せず、装備を担当する参謀長 MA ZHENJUN 中將が中国空軍代表団団長として出席した。”

KDR が 20 年以上の取材経験から見て奇異に思ったことだが、ある国が真に某

型戦闘機の獲得を望むならば、空軍司令が当該国のエアショーに必ず出席しその機体を自らの目で見て研究するのが普通だ。しかし今回のモスクワエアショーは、そうでない格好の見本を提供した。ロシアの聯合航空機集团公司 (UAC) は、KDR 記者を招待し同会社のニュースセンターで SU-35、T-50 の飛行デモを直接見せてくれた。パリエアショーでの SU-35 の飛行デモと異なるところは、360 度逆宙返りの動作（スーパーコブラ動作）を展示したことだ。

” 中国側は我々に、数ヶ月内に空軍代表団を派遣し SU-35 のシミュレーターに試乗する、と告げた。SU-35 のシミュレーターはモスクワエアショーにも展示した。しかし残念なことに中国空軍代表団は SU-35 のシミュレーターに試乗する機会を逃してしまった。これは我々には理解できない”。ロシアの消息筋はこうのように述べた。KDR 記者がシミュレーター室に入ったとき、SUKHOI 航空機会社の代表に質問した：中国人はこのシミュレーターを操縦したか？と。その理由は、このシミュレーター室に入るためには SUKHOI 航空機会社の特別許可が必要であり、これに対してシミュレーター室の主担当者は：この 3 日間（業界対象日）、中国空軍代表団メンバーは SU-35 シミュレーターを訪れていない、と述べた。

KDR の結論はこうだ：中国空軍は確かに SU-35 の購入を急いではない。したがって 2013 年末に交渉を完了し、購入に関する正式契約を行う可能性はない、ということだ。現在すでに 10 月である。しかもシミュレーターの試乗すら行っていない。

SU-35 の購入は、SU-27 や SU-30 の購入とは全く異なる。試験飛行の手順から見ても、後者に比べ多くの困難が存在する。なぜなら SU-27UBK や SU-30MK シリーズは全て複座である。中国空軍は、購入する前に、直接これらの飛行機に試乗することが出来た。しかし SU-35 は、購入した後でないと実際に飛行することが出来ない。したがってシミュレーターでの研究が最も重要であると思うのだが。

以上